

外国語教育に係る系統的な学びの接続を 意識できる継続的な小中連携



<校区内連携モデル>

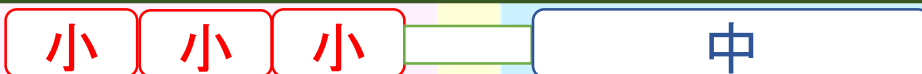


小学校

中学校

ステップ③ 共通授業検証会議

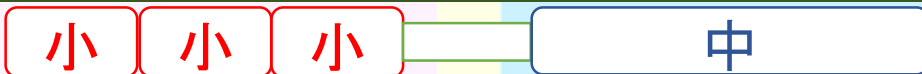
共通授業実践の成果と課題の把握



次年度に向けた連携内容と連携機会の設定

ステップ② 共通授業実践

共通単元構想を基にした共通授業実践

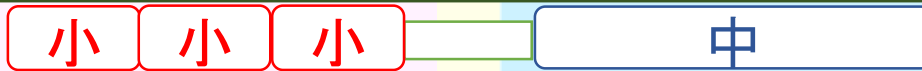


学習内容・形態の統一

授業参観・情報収集

ステップ① 共通授業検討会議

情報交換と小中の系統性を意識した共通単元構想の検討



小中の系統性を意識

情報提供・情報収集

サポートリーフレットの活用②

サポートリーフレットの活用①

小小連携
小中連携 に関する

- 先行研究の活用
- アンケート結果の考察

【国・県】の課題

【学校】の課題

- 学校段階の学びの円滑な接続
- 校区内の連絡会や合同研修会の実施

- 連携内容及び連携機会の設定
- 系統性を意識した小中連携

「校区内連携モデル」の実践

ステップ③ 共通授業 検証会議

実践の成果と課題を把握

次年度小中連携内容決定



◎実践の成果と課題を次年度につなげることで、継続的な小中連携を実現

小中の系統性を意識した連携方法が見えました。

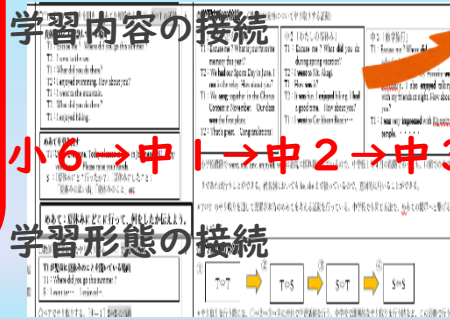


校区内の小中連携の枠組みが整ったので、来年度も継続していきたい。



ステップ② 共通授業 実践

共通単元構想の実践



◎中学校区内3小学校で実践
◎小6～中3までの系統的な学びの接続例を明記

中学校への系統性を意識した授業ができました。

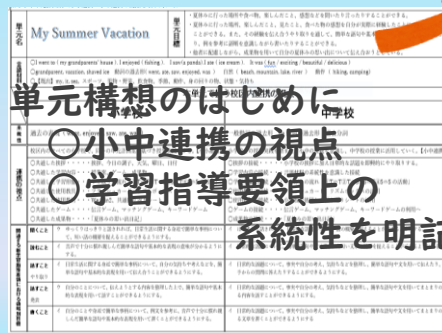


小学校の指導内容を踏まえた授業ができます。



ステップ① 共通授業 検討会議

共通単元構想の検討



◎小学校の授業に中学の意見を取り入れた小中連携を推進

単元構想をする中で、中学校の学習内容を知りました。



情報交換から校区内小学校の指導内容がつかめました。



- 成果** ○共通単元構想から、小中学校教職員が小中の系統性を意識できた。
○「校区内連携モデル」の活用により、継続的な小中連携が推進できた。
- 課題** ●「校区内連携モデル」を推進するに当たり校区内の担当者が必要である。

提言「校区内連携モデル」を活用することで、教職員の小中連携に対する意識が高まり、系統的な学びの接続を意識できる継続的な小中連携が推進されていくと考えます。